

学級を組み立てる法則

～子どもと関わり感じたこと～

愛知県西加茂郡小原村立小原中学校

みやた やすひろ
宮田安弘

【実践の内容】

生徒のために良いと思うこと、正しいと思うことを全て試し、自分流で全ての教育活動にあたっている。指導後の子どもの様子を見ると、幾つかのキーワード、ルール、教育技術が見えてきた。勿論その全てが、どの子どもにも通用することではなく、場所が変われば修正を迫られることもある。教育は奥が深く、簡単に語れるものではないが、どの教師が追試しても通用するいくつかの法則や教育技術を紹介したい。

【論文内容の紹介】

1 学級の立ち上げ、一週間にすべきこと

(1) 学級組織作りの前にすべきこと

学級の組織作りをするにも、級友のことをよく知らなくてはできるものではない。したがって、二日目以降の学級活動では、心が通い合うように、スキンシップや関わりを含んだレクリエーションを行うべきである。

(2) 学級組織作りを進めるにあたって

学級役員の内、二名が級長、副級長として挨拶と学級会の司会等を受け持つ。この二名は、学級の中枢部を担うため、一番信頼されている男女一名ずつを選出する。次に信頼されている子どもから、学級書記として男女各一名ないし各二名を選出する。この子どもには、学級会の書記、提出物の点検、教室移動時の戸締まりを担当してもらう。

(3) 男女が協力できる学級にするために

年度の初めに、男子には「この一年間で女子の良い面を、沢山探してほしい」、女子に

は「この一年間で男子の良い面を、沢山探してほしい」ということを必ず話す。良い面を探するには、お互いが関わらなければならないし、良い面を探し尊敬し合うこともできる。

2 一年間こだわりをもって行ったこと

(1) 子どもが登校するまでに行うこと

生徒下校後、必ず教室に足を運び、教室の環境整備を行う。美化係の点検活動によって、カーテンも東ねられ、机・椅子の整頓、本棚の整理も行われているが、担任として手を必ず加えている。翌朝、子どもが登校するまでの間に、廊下・教室の窓を開放し、黒板の日付、床等の汚れを確認する。気になる所は、手を加え、伝えたいことがあれば、黒板に子ども達へのメッセージを記入する。

(2) リーダーの育成が学年を左右する

自分の学級だけでなく、ほかの学級のリーダーも育てるために、学年の学級役員を集め、リーダー会を定期的に行う。リーダーとはどうあるべきかを指導したり、学級の問題点を出し合い、それを学年の問題として扱う。話し合った内容は、リーダー会後に必ず新聞を発行させ、全生徒に伝達させていた。教師とリーダーの両面から指導すると、指導がよく通るようになる。

3 おわりに

- ・学級立ち上げ一週間は、黄金の時間である。この時期に、指導の徹底を図り組織作りをすることが、一年間の学級経営を左右する。
- ・子どもの絆を深めるには、スキンシップが有効である。学級立ち上げ時には仲間作りゲームやフォークダンス等を取り入れたい。
- ・誰でも子どもを動かせる魔法の言葉、手順がある。ただし、その指導で頑張ってくれた子どもの賞賛を忘れないようにする。「ありがとう」の一言でもいい、無償の行動に対して、必ず感謝の気持ちを伝えたい。
- ・保護者の協力無くして、教育は成り立たない。保護者に、学校での子どもの様子を伝える努力を怠ってはいけない。